



神戸市会議員



岡田ゆうじ

自由民主党神戸市会議員団市政報告

2020.12

No.30

# 第3波への備え

冬を迎え、新型コロナウイルスの感染が神戸市でも拡大しつつあります。新規陽性者数が過去最多を更新するなど、極めて警戒すべき状況が続いています。

こうした中、神戸市は中央市民病院に新型コロナ重症患者の受入れに特化した臨時専用病棟を設置し、11月9日から運用を開始しています。病床数は36床。全ての病床で重症患者の受入れができる専用病棟の整備は、全国でも余り例がありません。ゾーニングや遠隔で患者を見守ることができるモニタリングシステムにより、職員の感染対策を徹底しています。

今回の臨時病棟の完成により、新型コロナ患者への治療と中央市民病院の救急医療、高度医療の提供の両立が、一層はかれることとなります。3月に市内で初めての患者が発生し、4月には中央市民病院で院内感染が発生しました。未知のウイルスとの闘いに、医療従事者の方々は大変なご苦勞をされてきました。改めて献身的な対応に感謝するとともに、PCR検査体制はもちろんのこと、感染

拡大の阻止と重症患者の治療体制の更なる拡充に向け、引き続き緊張感をもって対応していきます。

市民の皆様におかれましても、これ以上の感染拡大を何としても防ぐべく、専門家から提言されている、大人数・長時間におよぶ飲食など、感染リスクが高まる『5つの場面』に注意し、改めて、3密の回避、会話の時のマスクの着用など、基本的な感染対策を徹底するようお願いいたします。



コロナ重症患者受け入れに特化した専用病棟

# 感染リスクが高まる 「5つの場面」(内閣官房)

## 場面① 飲酒を伴う懇親会等

- 飲酒の影響で注意力が低下する。また、聴覚が鈍磨し、大きな声になりやすい。
- 特に敷居などで区切られている狭い空間に、長時間、大人数が滞在すると、感染リスクが高まる。
- また、回し飲みや箸などの共用は感染のリスクを高める。



## 場面② 大人数や長時間におよぶ飲食

- 長時間におよぶ飲食、例えば深夜のはしご酒では、通常の食事比べて、感染リスクが高まる。
- また大人数、例えば5人以上の飲食では、大声になり飛沫が飛びやすくなるため、感染リスクが高まる。



## 場面③ マスクなしでの会話

- マスクなしに近距離で会話をすることで、飛沫感染やマイクロ飛沫感染での感染リスクが高まる。
- マスクなしでの感染例としては、昼カラオケや野外のバーベキューでの事例が確認されている。



## 場面④ 狭い空間での共同生活

- 狭い空間での共同生活は、長時間にわたり閉鎖空間が共有されるため、感染リスクが高まる。
- 寮の部屋やトイレなどの共用施設での事例が確認されている。



## 場面⑤ 居場所の切り替わり

- 仕事での休憩時間に入った時など、居場所が切り替わると、気の緩みや環境の変化により、感染リスクが高まることもある。
- 休憩室、喫煙所、更衣室での事例が確認されている。車やバスで移動する際の車中でも注意が必要。

